



日本共産党杉並区議会議員

週刊

# こんにちは 山田耕平 です

2021.7.29 No.418

このニュースへのご感想  
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

<http://yamadakohei.jp>

## 西武新宿線鉄道連続立体交差化事業 より早く立体化するために、工法の再検討を

### 練馬区間の大規模マンション等 高架化反対で用地取得困難に

7月21日、杉並区都市計画審議会が開催され、西武新宿線の井荻駅〜西武柳沢駅間の鉄道連続立体交差化事業を高架化で実施すること等についての議案審議が行なわれました。

井荻駅〜西武柳沢駅間の鉄道連続立体交差化については、昨年より高架方式での都市計画案の説明会が開催され、今回、都市計画決定となりました。

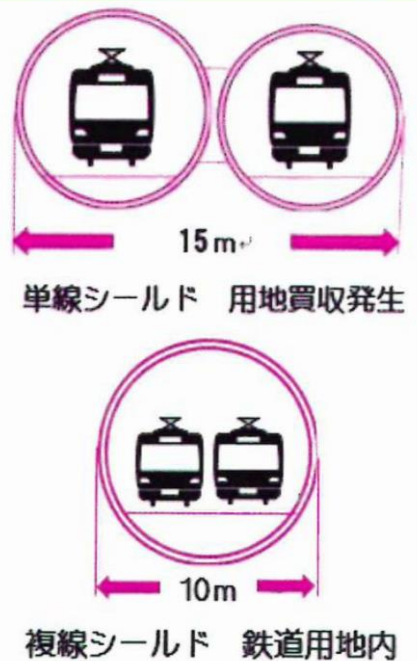
一方、練馬区間では、地権者の多くが地下化を求め、計画見直しの声を上げています。上石神井4丁目の新築大型マンションは高架化により建物が削られてしまうことから高架化に反対。管理組合の総会で地下化推進が決議される等、関係権利者の理解と納得を得られていません。高架化で事業を実施した場合、用地取得が進まず、工期が大幅に延長することが懸念されています。

この間、中井駅〜野方駅間でも用地取得が難航し、工期が予定よりも6年延びています。連続立体交差事業を進めるにあたっては、用地買収が増加することによる工期延長も見据えた検討が必要ですよ。

### 複線シールド工法等を検証し 用地取得を減らす手立てを

西武新宿線の鉄道連続立体交差事業は、地下化の検討が単線シールド（上り下り、それぞれの線が別々のトンネルに入る形）でのみ、検証を進めました。

単線と複線シールドの違い



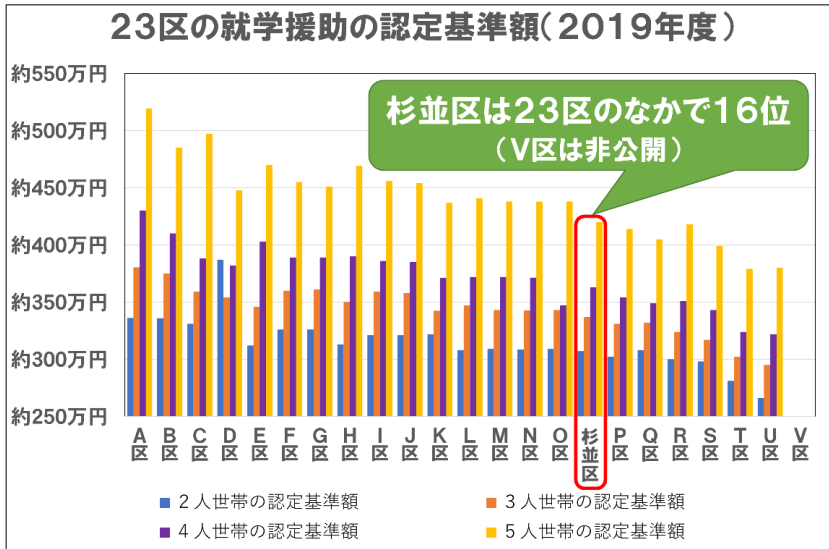
「複線シールド」工法は1本のトンネルを掘り、その中に上下2つの線路を入れる工法。「単線シールド」と比較して、工事区域の幅が狭くなり、多くの区間で現在の鉄道敷地内に工事区域が収まる可能性がある。横浜市の相鉄線でも採用されている工法。

一方、党都議団は複線シールド（右図）での検証を行なうよう求めてきました。複線シールドは、一つのトンネルに上下両方の線路を入れる方式であり、用地買収を少なくすることによる工期短縮、費用も縮減する可能性があります。事業遅延のリスクを無くすためには、複線シールドによる地下化も含めた検討が必要です。

党区議団は、高架化ありきで計画を進めることへのリスクを指摘し東京都の議案に反対しました。開かずの踏切を一刻も早く除却するためには、高架化以外の工法を検証し、工期短縮と費用縮減も含めた検討を尽くすことを求めました。引き続き、連続立体化を速やかに実現するために有効な手立てを訴えていきます。

# 杉並区の認定基準額は23区中16位…

# 他区に比べ低い認定率 就学援助制度の拡充を求める



**基準額の低さが原因であることは明らか 党区議団調査に対し、他区調査を明言**

子どもの貧困が問題となるなか、貧困の連鎖解消のために生活困窮世帯への教育費負担の軽減は喫緊の課題であり、就学援助の拡充は待ったなしです。

一方、杉並区では、そうした状況に逆行し、就学援助の認定基準を改悪してきました。そのため杉並区内の小中学生に対する就学援助認定者の割合(認定率)は23区中16位と極めて低い状態です。しかし、区は認定基準の改悪が、認定低迷の原因とは認めてきませんでした。こうした実態を明らかにするため、党区議団は都内自治体への独自調査を実施、同一条件での基準額を比較しました(左グラフ参照)。

その結果、杉並区の認定基準額の水準は23区中17位であり、他区に比べ受給条件が厳しいことが明らかとなりました。

世帯構成や年収も同じなのに、杉並区に住んでいることで公的支援である就学援助が受けられないという状況が発生しています。

第二回定例会の質疑では、調査結果のグラフを示し、認定基準額の改善を求めました。

区は認定基準額について「現時点で直ちに引き上げるとの判断には至っておりません」としつつ「他区の状態につきましても、これから把握して調査していきたい」との認識を示しました。杉並区が他区の状態を確認すると明言したことは、認定基準引き上げに向けた大きな一歩です。

## 今週の一言

### 杉並区でも感染激増

東京都の感染者数が3000人を超え、杉並区でも感染者数が激増しています。7月19日からの一週間合計の感染者数は515人に…。26日の週はさらに悪化する見通しです。東京五輪は直ちに中止し、コロナ対策に全力を尽くすべきです。

## 入学準備金も低水準、小学生23区中19位、中学生23区中23位

認定基準額だけでなく、就学援助で小中学校の新一年生に支給される入学準備金についても、他区より低水準となっています。

杉並区の入学準備金は、小学一年生は4万7410円で23区中19位、中学生は5万3440円で23区中、23位です。

中野区や世田谷区、豊島区などでは、小学生が6万4300円と、杉並区より1万7000円も高く、中学生では8万1000円と2万8000円近く高い金額が支給されています。

党区議団は、入学準備金の改善・拡充、就学援助受給世帯の拡充を目指して全力を尽くします。

## 外環道 掘進再開は許されない

陥没事故を起こしストップしている外環道工事は、シールドマシンの保全を名目に練馬区大泉地域で百数十メートルの掘進を進めることを発表。現在、掘進が再開されています。突然の掘進再開に住民の怒りの声が上がっています。

この事態を受けて、党国会議員団による国土交通省レクが行なわれ、私も参加しました。レクでは、驚くべきことに、担当職員が「手違いで質問が届いていない」とし、報道以上のことには一切答えない姿勢に終始。議員や住民への説明責任を軽視する重大な問題です。その後、レクは仕切り直しとなりました。



国土交通省レクに参加。上保まさたけ衆議院東京8区予定候補も参加した。